

日本語とシンハラ語の応答表現の対照

ウイラシンハ・ディリニ・ハサンティカ

1. はじめに

自然談話の中で「応答表現」のやりとりは、他人との円滑なコミュニケーションを行う上で重要な要素である。¹本稿では、日本語母語話者とシンハラ語母語話者の会話に見られる応答表現の共通点と相違点を明らかにする。

日本語の「応答表現」の先行研究においては、応答表現の機能と意味分析に限定された研究が多様である。日本語とシンハラ語の応答表現の対照研究は皆無であり、その問題を解明することを本稿の目的とする。すなわち、日本語話者とシンハラ語話者を対象としたアンケート調査によって両言語の応答をとりあげ、それらの共通点、相違点、特徴を明らかにするのである。特に、日本語の肯定応答表現の「はい」「ええ」「うん」をシンハラ語の「ou(はい)」「haa(良いよ、オーケー)」「hari(良いよ、オーケー)」と、日本語の否定応答表現の「いいえ」「いえ」「いや」をシンハラ語の否定応答表現の「nae:/nahe(いいえ)」「bae:/bahe(できない)」と比較し、両言語の応答表現の分析を行う。

2. 先行研究

2.1 日本語の応答表現の先行研究

ここで日本語の応答表現に関する先行研究を概説する。

森山（1989）は、応答表現の分類を以下の通りに示している。

反対表明類：「いえ」「いいや」「いやいや」「違う」

不同意類：「いやだ」「ことわる」「(だめだ)」

不可能類：「できない」「(だめだ)」

森山は、応答表現の用法の分類に注目しており、例えば、「いえ」と「いいや」の差異の説明までは述べていない。田窪（1997）は、「いいえ」「いえ」「いいや」の否定応答表現形式を感動詞・応答詞の機能的な分析の中で取り上げ、各々の形式の心的な機能に注目している点は評価できる。しかし、各々の形式の具体的な記述がなく、「承認の機能」「評価の先触れ」についての説明がない。また、「いや」「いやあ」「いやいや」

¹ この論文は、2011年9月11日、首都大学東京（南大沢キャンパス）で開かれた日本国際教育学会第22回研究大会において同じ題目で行った発表をまとめ直したものである。

等の応答を「あいまいな否定」と呼び、この「あいまいな否定」の応答詞は、応答という文脈を離れて、さまざまな評価的な発話とともに用いられると述べているが、各々の形式の具体的な説明がない。土屋（2000）は、否定応答表現形式を「いいえ系感動詞」と呼び、そこに「いいえ」「いえ」「いや」の形式を含めており、各々の形式の機能の説明までは述べていない。中島（2001）は、肯定応答詞には「はい」「はあ」「ええ」「うん」「そう」などがあり、これらを「はい」系と呼び、否定応答詞には「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」などがあり、これらを「いいえ」系と呼んでいる。山根（2003a,b）は、「いえ」と「いいえ」を別の形式として区別している。

富樫（2006）は、肯定応答表現には「はい」「うん」「ええ」と否定応答表現には「いえ」「いいえ」「いや」等の形式が用いられ、聞き手に対しては「いえ」が「より丁寧」であり、「いや」が「非丁寧」であると述べている。北川（1977）は、「はい」は「相手の言ったことがこちらにはつきり届いたということを敬意をもって表示する」のに對し、「ええ」は、「相手の言ったことに対する『自分もそのように思う』という自分の気持ちを表出する」と述べている。北川のこの意味分析は評価できる。

以上の先行研究では、日本語の応答表現は肯定応答表現と否定応答表現とに大別されるという点においては同一であるが、それぞれに用いる形式は違う。本稿では富樫に従い、日本語の「いいえ」「いえ」「いや」等の形式を否定応答表現、「はい」「ええ」「うん」等の形式を肯定応答表現として分類する。そしてこれらに当たるシンハラ語をその言語の応答表現として扱い、比較を行う。

2.2 シンハラ語の応答表現の先行研究

ここでシンハラ語の応答表現に関する先行研究を概説する。

Dissanayake（1992）は、否定応答表現に用いる形式は以下の表1の通り示している。

表1：シンハラ語の否定応答表現

否定応答表現	日英語意味
<i>nae:/nahe</i>	いいえ/No
<i>neme:</i>	ない/Not
<i>bae:/bahe</i>	できない/Can't
<i>epaa</i>	いらない/Don't want

Dissanayake は、「*nae:*」「*bae:*」は口語に使用され、「*nahe*」「*bahe*」は文章語に使用されると述べている。また、*nae:/nahe* は、肯定応答表現の「*ou*」の反意語である。

Fair Banks,Gair,De Silva（1968b）は、「*haa*」は英語の「Yes」又は「All right」「Ok」

の意味で、「*hari*」も同様である。「*haa*」「*hari*」は「命令」又は「依頼」に対する肯定応答表現として使用し、それ以外では肯定応答表現として「*ou*(Yes)」が使用されていると述べている。

3. 調査概要

2010年の5月から7月にかけて、20代、30代の日本語話者（30人）と在日シンハラ語話者（30人）を対象とした、アンケート調査によって、データ収集を行った。日本語話者とシンハラ語話者には、同一内容の調査を行い、質問に対しての答えを自由に記入してもらい、そのように答えた理由も記入するようお願いした。

アンケートは、中村（1988）、大野（2009）の先行研究の用例を参考にして「ほめられた場合」「頼まれた場合」という二つの会話場面に分け、「先生から言わされた時」と「友達から言わされた時」という二つの場合に対する応答を考察した。

4. 結果と考察

4.1 ほめられた場合

実施したアンケートの「ほめられた場合」の日本語話者とシンハラ語話者の回答にあった応答は、森山（1989）、田窪（1997）、富樫（2006）の先行研究を参考にして以下の表2の項目に区分し、結果分析を行った。

表2：ほめられた場合の結果分析

項目名	日本語	シンハラ語
肯定表現	はい、ええ、うん	<i>ou,haa/hari</i>
否定表現	いいえ、いえ、いや	<i>nae:/nahe,bae:/bahe</i>
同意表現		<i>Ehema hithanawaa,math ekagaii</i>
不同意表現	そう思いません、そんなことないよ、 そうでもないよ	<i>Ehema hithannae,ekaganowe</i>
感情表現	（どうも）ありがとう、ありがとう ございます	<i>(boho:ma)istuutiy,thank you</i>
あいまいな 応答表現	まあ、たまには…ね、ああ	<i>aa,oh,hmm</i>
その他	本当に？、そうか？、そうですか？	<i>etthada?,ehema penawada?</i>

日本語とシンハラ語の応答表現の対照

以下の表3と表4は、「ほめられた場合」に対する日本語話者とシンハラ語話者のアンケートの結果を示したものである。

表3：「ほめられた場合」 - 日本語

		先生				友達			
		語学	持ち物	母親	道案内	語学	持ち物	母親	道案内
応答表現使用	肯定	3(10%)	1(3.3%)	3(10%)		2(6.7%)	9(30%)	5(16.7%)	
	否定	6(20%)	17(56.7%)	10(33.3%)	14(46.56%)	7(23.3%)	6(20%)	7(23.2%)	10(33.4%)
応答表現不使用	同意								
	不同意	3(10%)	3(10%)	3(10%)	11(36.7%)	3(10%)	2(6.7%)	5(16.7%)	12(40%)
	感情	18(60%)	5(16.7%)	4(13.3%)	5(16.7%)	10(33.3%)	5(16.7%)	2(6.7%)	7(23.3%)
	あいまい			2(6.7%)		2(6.7%)		3(10%)	
	その他		3(10%)	8(26.7%)		6(20%)	7(23.3%)	8(26.7%)	
	無回答		1(3.3%)				1(3.3%)		1(3.3%)
	計	30	30	30	30	30	30	30	30

表4：「ほめられた場合」 - シンハラ語

		先生				友達			
		語学	持ち物	母親	道案内	語学	持ち物	母親	道案内
応答表現使用	肯定	13(43.4%)	5(16.7%)	26(86.7%)	10(33.3%)	14(46.7%)	15(50%)	22(73.3%)	12(40%)
	否定	7(23.3%)	14(46.6%)		7(23.3%)	6(20%)	5(16.6%)	1(3.3%)	5(16.6%)
応答表現不使用	同意			3(10%)				2(6.7%)	2(6.7%)
	不同意				3(10%)				2(6.7%)
	感情	10(33.3%)	7(23.3%)	1(3.3%)	10(33.4%)	10(33.3%)	6(20%)	5(16.7%)	9(30%)
	あいまい								
	その他		4(13.4%)				2(6.7%)		
	無回答						2(6.7%)		
	計	30	30	30	30	30	30	30	30

「ほめられた場合」は、大野（2009）を参考にして「語学」「持ち物」「母親」「道案内」という同一内容の四つの項目に分けて調査を行った。「ほめられた場合」の質

問は大野（2009）とほぼ同じ質問で、日本語とシンハラ語は同一内容で次の通りである。

- 語学：○○さん（あなたの名前）、英語が上手になってきましたね。（シンハラ語話者の場合は、「日本語が上手になってきましたね」にした）
- 持ち物：○○さん（あなたの名前）の時計、高級そうですね。
- 母親：＜あなたの家族の写真を見ながら＞○○さん（あなたの名前）のお母さん、優しそうですね。
- 道案内：＜あなたが老人の大きなかばんを運んで道案内をしている様子を見て＞ 今、見ましたよ。○○さん（あなたの名前）は親切ですね。

表3と表4を見ると、「語学」では、日本語話者では先生から言われた時と友達から言われた時は「ありがとうございます」「嬉しい」等の「感情表現」が多く、シンハラ語話者では、先生又は友達から言われた時という二つの場合「肯定表現」が多い。日本語話者では、友達から言われた時「感情表現」が33.3%を示していても「否定表現」と「それほどでもない」の「不同意表現」、また「そうですか？」「本当ですか？」「本当に？」「え、本当？」「そう？」等の質問を確認する疑問の「その他」の回答も非常に多い。

日本語の教科書には「いえ、いえ」「まだまだ」のような否定的な返答が多く表わるので、日本語母語話者もこれを多く使うのではないかと筆者が予測していた。しかしこの予測を裏切る結果となった。以上の結果からも分かるように「語学」では、先生から言われた時は、日本人もスリランカ人もほめを受けようとする傾向が強かった。友達から言われた時は、スリランカ人はほめを受けようとする傾向が見られる一方、日本人は謙遜する傾向が見られる。

表3と表4を見ると、「持ち物」では、先生から言われた時両話者では「否定表現」が多い。友達から言われた時、日本語話者では「肯定表現」と「その他」が多く、シンハラ語話者では「肯定表現」が多い。「持ち物」では、両話者とも先生から言われた時は「高い物を強調したくない」のに比べて、友達からの場合は「友達には自慢したい」という日本語話者とシンハラ語話者の感覚はほぼ同じようである。したがって「持ち物」では、先生から言われた時は、両話者ともほめを受けようとする傾向が低い。逆に、友達から言われた時は、両話者ともほめを受けようとする傾向が強いと言える。

表3と表4を見ると、「母親」では、先生から言われた時、日本語話者では「否定表

現」が多く、シンハラ語話者では「肯定表現」が多いのが特徴である。友達から言わされた時、日本語話者では「そう見えるか?」「そう?どこが?」等の確認の疑問の「その他」が多く、シンハラ語話者では「肯定表現」が多い。

以上のことから、「ほめられた場合」の「語学」「持ち物」の時と比べると、日本人とスリランカ人の返答の大きな差が見られたのは「母親」であることが理解できる。したがって「母親」の場合、日本人は先生又は友達から言わされた時は謙遜する気持ちが表われやすく、スリランカ人は意図通り素直に表現することが多いようである。

表3と表4を見ると、「道案内」では先生から言わされた時、日本語話者は「否定表現」が多く、シンハラ語話者は「肯定表現」と「感情表現」が多い。友達から言わされた時、日本語話者は「否定表現」が多く、シンハラ語話者は「肯定表現」が多い。したがって、「道案内」においては、日本人は先生又は友達から言わされた時に謙遜する気持ちが表われやすく、スリランカ人は自分の気持ちを正直に又はストレートに表現するようである。

4.2 「ほめられた場合」の日本語とシンハラ語の応答表現の比較

以上の表3と表4では、「ほめられた場合」の日本語話者とシンハラ語話者のアンケートの全体的な返答を示している。以下の表5と表6は、表3と表4の「ほめられた場合」の日本語話者とシンハラ語話者の回答の肯定応答表現と否定応答表現の形式別の結果である。

表5：「ほめられた場合」-日本語

	先生				友達			
	語学	時計	母親	道案内	語学	時計	母親	道案内
はい	3	1	3	0	2	2	1	0
ええ	0	0	0	0	0	2	2	0
うん	0	0	0	0	0	5	2	0
計	3	1	3	0	2	9	5	0
いいえ	1	6	2	2	0	0	0	0
いえ	4	8	6	8	4	3	3	4
いや	1	3	1	4	3	3	4	6
計	6	17	10	14	7	6	7	10

表6：「ほめられた場合」-シンハラ語

	先生				友達			
	語学	時計	母親	道案内	語学	時計	母親	道案内
<i>ou</i>	13	5	26	10	14	15	22	12
<i>haa</i>	0	0	0	0	0	0	0	0
<i>hari</i>	0	0	0	0	0	0	0	0
計	13	5	26	10	14	15	22	12
<i>nae:</i>	5	11	0	6	4	4	1	4
<i>nahe</i>	2	3	0	1	2	1	0	1
<i>bae:</i>	0	0	0	0	0	0	0	0
<i>bahe</i>	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7	14	0	7	6	5	1	5

表5を見ると、先生から言わされた場合、日本語話者の肯定表現では「はい」が多用され、友達から言わされた場合は「ええ」「うん」の使用が多い。「はい」は、「聞き手に対してより丁寧」であるため、先生から言わされた時は「はい」の使用が多く、友達から言わされた時は「はい」よりも「ええ」「うん」の使用が多くなったといえる。

日本語話者と比べてシンハラ語話者は、先生又は友達から受けた「ほめ」に関しての肯定表現では「*ou*(はい)」しか使用されていないのは特徴である。「*haa/hari*」は、意味的には日本語の「良いよ、オーケー」という意味で同様だが、形式別の使い分けを詳しく示すため、「*haa*」「*hari*」の記述は別々に示すようにした。「ほめられた場合」の質問を見ると、ほとんど Yes/No 疑問文に近いと言える²。したがってシンハラ語では、Yes/No 疑問文に近い質問に対しての肯定応答表現として「*ou*」が使用される。

「*ou*」は、英語の「Yes」と同様に丁寧さの関係なく目上にも目下にも使用されているのが実証された。

否定応答表現の場合日本語話者では、先生から言わされた時「いえ」が多用され、友達から言わされた時「いや」がよく使用されている。聞き手に対して「いえ」がより丁

²含意yes/no型は、「YesかNoで応答しないが、意味的にYesかNoを含意するものである。yes-no疑問文の応答にはまずYesかNoをはっきりさせることが求められるが、YesやNoがなくても質問に対して肯定か否定の意思表示は可能となるので、YesやNoが落ちても何ら支障はないものと思われる。」鈴木雅光 (2004) 参照。

寧であり、「いや」が非丁寧であると位置付けられる。「ほめられた場合」に対する日本語話者の否定応答表現の「いいえ、いえ、いや」の使い分けの差は丁寧さの差のみであるといえる。また、否定応答表現では「いいえ」よりも「いや」「いえ」の使用のほうが多いといえる。シンハラ語話者の場合、先生又は友達から受けた「ほめ」に関しての否定応答表現では「nae:(いいえ)」が多用されている。「nae:/nahe」は、意味的には英語の「No」という意味で同様だが、形式別の使い分けを詳しく示すため、「nae:」「nahe」の記述は別々に示すようにした。「nae:/nahe」は、英語の「No」と同様に、丁寧さの関係なく目上にも目下にも使用されているのが実証された。ただし、「nae:」は、口語に使用され、「nahe」は、文章語に使用されている。アンケートでは、「実際の会話の場面ではどう答えるかを想像しながら回答する」という説明を加えたが、記入することによって「文章語で記入してしまう」というミスが起こることは絶対ないとはいえない。

4.3 賴まれた場合

実施したアンケートの「頼まれた場合」の日本語話者とシンハラ語話者の回答にあった応答は、森山（1989）、田窪（1997）、富樫（2006）の応答表現の先行研究を参考にして以下の表7の項目に区分し、結果分析を行った。

表7：頼まれた場合の結果分析

項目名	日本語	シンハラ語
肯定表現	はい、ええ、うん	<i>ou,haa/hari</i>
否定表現	いいえ、いえ、いや	<i>nae:/nahe,bae:/bahe</i>
可能性を表す表現	できます、大丈夫です、いいよ	<i>puluwan</i>
不可能性を表す表現	無理、用事があつてできません、いやだ	<i>Yamakkiriimata apahasubawa</i>
あいまいな応答表現	ああ、えー	<i>aa,hmm</i>
その他	明日ですか？、しょうがないなあ、めんどくさいもん	<i>hetada?</i>

日本語とシンハラ語の応答表現の対照

以下の表8と表9は、「頼まれた場合」に対する日本語話者とシンハラ語話者のアンケートの結果を示したものである。

表8：「頼まれた場合」 - 日本語

		先生			友達		
		物のやり取り	行動受ける	行動断る	物のやり取り	行動受ける	行動断る
応答表現使用	肯定	10(33.3%)	21(70%)		6(20%)	7(23.3%)	
	否定				3(10%)		7(23.3%)
応答表現不使用	可能性	20(66.7%)	9(30%)		15(50%)	20(66.7%)	
	不可能性			27(90%)	4(13.3%)		21(70%)
	あいまい				2(6.7%)		
	その他			3(10%)		3(10%)	2(6.7%)
	無回答						
	計	30	30	30	30	30	30

表9：「頼まれた場合」 - シンハラ語

		先生			友達		
		物のやり取り	行動受ける	行動断る	物のやり取り	行動受ける	行動断る
応答表現使用	肯定	25(83.3%)	25(83.3%)		20(66.7%)	27(90%)	
	否定						16(53.3%)
応答表現不使用	可能性	5(16.7%)	5(16.7%)		10(33.3%)	3(10%)	
	不可能性			26(86.7%)			10(33.3%)
	あいまい						2(6.7%)
	その他			4(13.3%)			2(6.7%)
	無回答						
	計	30	30	30	30	30	30

「頼まれた場合」の質問は日本語とシンハラ語は同一内容で次の通りである。

- 「物のやり取り」：(財布、忘れたと言って) ○○さん (あなたの名前)、悪いけどちょっと、100円貸してくれませんか。

- ・ 「行動のやり取り」：〇〇さん（あなたの名前）、明日、私の代わりに会議に出席してもらえませんか。

受ける場合：

断る場合：

表8と表9を見ると、「物のやり取り」では先生又は友達から言われた時、日本語話者は「可能性を表す表現」が多く、シンハラ語話者は「肯定表現」が多い。「物のやり取り」では、両話者とも先生又は友達から頼まれた時に關してはできることなら「やってくれる」傾向が見られる。

表8と表9を見ると、「行動のやり取り - 受ける場合」には、先生から言われた時、両話者とも「肯定表現」が多い。友達から言われた時、日本語話者は「可能性を表す表現」が多く、シンハラ語話者は「肯定表現」が多い。「行動のやり取り - 断る場合」は、先生から言われた時両話者とも「不可能性を表す表現」が多い。友達から言われた時、日本語話者は「不可能性を表す表現」が多く、シンハラ語話者は「否定表現」が多い。

したがって「行動のやり取り - 受ける場合」では、両話者とも先生又は友達から頼まれた時に關しては、自分に負担にならないことなら「やってくれる」傾向が見られる。

「行動のやり取り - 断る場合」では、日本人は先生に対しても友達に対しても、和合的に答えようとする傾向が強いと言える。スリランカ人は、先生に対しては、服従心が強く和合的に答えようとするが、友達に対しては、心で思った通りの離反的に答える傾向が見られた。

4.4 「頼まれた場合」の日本語とシンハラ語の応答表現の比較

以上の表8と表9では、「頼まれた場合」の日本語話者とシンハラ語話者のアンケートの全体的な返答を示している。以下の表10と表11は、表8と表9の「頼まれた場合」の日本語話者とシンハラ語話者の回答の肯定応答表現と否定応答表現の形式別の結果である。

表 10：「頼まれた場合」-日本語

	先生			友達		
	物のやり取り	行動受ける	行動断る	物のやり取り	行動受ける	行動断る
はい	10	21	0	1	1	0
ええ	0	0	0	3	2	0
うん	0	0	0	2	4	0
計	10	21	0	6	7	0
いいえ	0	0	0	0	0	0
いえ	0	0	0	0	0	2
いや	0	0	0	3	0	5
計	0	0	0	3	0	7

表 11：「頼まれた場合」-シンハラ語

	先生			友達		
	物のやり取り	行動受ける	行動断る	物のやり取り	行動受ける	行動断る
<i>ou</i>	0	0	0	0	0	0
<i>haa</i>	22	20	0	11	15	0
<i>hari</i>	3	5	0	9	12	0
計	25	25	0	20	27	0
<i>nae:</i>	0	0	0	0	0	0
<i>nahe</i>	0	0	0	0	0	0
<i>bae:</i>	0	0	0	0	0	13
<i>bahe</i>	0	0	0	0	0	3
計	0	0	0	0	0	16

表 10 を見ると、「頼まれた場合」先生から言われた時、日本語話者の肯定応答表現では「はい」が使用され、友達から言われた場合は、「ええ」「うん」の使用が多い。「はい」は、「聞き手に対してより丁寧」であるため、先生から言われた時は「はい」の使用が多く、友達から言われた時は「ええ」「うん」の使用が多くなったといえる。

表11を見ると、シンハラ語話者は先生から言わされた時も友達から言わされた時も「*haa*（良いよ、オーケー）」の使用が多い。「頼まれた場合」シンハラ語では、「*haa*」「*hari*」しか使用されていない。シンハラ語では、依頼に対する肯定応答として「*haa*（良いよ、オーケー）」「*hari*（良いよ、オーケー）」を使用する。「*haa*」「*hari*」は、フォーマル場面やインフォーマル場面の他、目上や目下にも使われている。なお、「*hari*」に関しては、相手が疎遠の関係よりも親しい関係の時の使用が多いといえる。

「頼まれた場合」日本語話者の否定応答表現では、「いいえ」よりも「いや」「いえ」の使用のほうが多い。

シンハラ語話者の場合、友達から言わされた時の否定応答表現では「*bae:/bahe*（できない）」しか使用されていない。「*bae:/bahe*」は、意味的には英語の「Can't」という意味で同様だが、形式別の使い分けを詳しく示すため「*bae:*」「*bahe*」の記述は別々に示すようにした。シンハラ語では、依頼に対する否定応答としては、「*bae:*」「*bahe*」が使用されている。「*bae:*」は口語に使用され、「*bahe*」は文章語に使用されている。

「ほめられた場合」と「頼まれた場合」のシンハラ語話者の返答では、「*ou*」「*nae:*」の後に「*miss/sir*（先生）」などを添えている。これは、英語の応答の仕方の「No,sir/miss」と同様である³。

5. おわりに

アンケート調査の分析の結果から、次のような結論が得られた。

- ① 日本語の肯定応答表現の「はい」「ええ」「うん」は、使用場面はフォーマルかインフォーマルか、相手は目上か目下か、などいろいろな要因によって使用する形式が異なるが、シンハラ語の肯定応答表現の「*ou*」「*haa*」「*hari*」は、フォーマル場面やインフォーマル場面の他、目上や目下にも万遍なく使われている。
- ② 日本語の否定応答表現の「いいえ」「いえ」「いや」は、使用場面がフォーマルかインフォーマルか、相手が目上か目下か等、様々な要因によって使用される形式が異なるが、シンハラ語の否定応答表現の「*nae:/nahe*」「*bae:/bahe*」は、フォーマル場面にもインフォーマル場面にも、目上にも目下にも万遍なく使われている。
- ③ 日本語では、「先生から言わされた時」の応答の場合、一般的に「はい」「いいえ」だけの応答で十分だが、シンハラ語では「*ou*」「*nae:*」の後に「*miss/sir*」等を添

³日本語では、「一般的に「はい」「いいえ」だけの応答で打ち切るが、英語では、Yes,Noの後にI will, sirなどを補足する。添えないと、突っぱりの悪い印象を与える。」中村（1988:p155）参照。

えるのが一般的である。添えないと、非丁寧又は悪い印象を与える傾向がある。

- ④ 日本語の否定応答表現では、「いいえ」よりも「いや」「いえ」の使用のほうが多い。

今回は、日本語とシンハラ語の肯定応答表現と否定応答表現を中心に絞っているが、今後は調査する対象者や会話場面の数を増やして細かく結果分析を行い、両言語の応答表現の対照を明らかにしていきたい。

参考文献

- 大野敬代 (2009) 「日本語母語話者と日本語学習者の「ほめ」の応答 —表現と意図からの分析—」『国際交流センター紀要』3 埼玉大学国際交流センター, pp.35 - 48
- 北川千里 (1977) 「「はい」と「えゝ」」『日本語教育』33, pp.65-72
- 鈴木雅光 (2004) 「yes-no 疑問文の応答について」『東洋大学大学院紀要』41, pp.503-518
- 田窪行則・金水敏 (1997) 「応答詞・感動詞の談話的機能」音声文法研究会 (編) 『文法と音声』くろしお出版, pp.257-279
- 土屋菜穂子 (2000) 「感動詞の分類 一対話コーパスを資料としてー」『青山学院大学文学部紀要』41, pp.239-255
- 富樫純一 (2004) 「否定応答表現「いえ」「いいえ」「いや」」『現代日本語文法における現象と理論のインタラクション』現代日本語文法研究会, pp.79-97
- 富樫純一 (2006) 「否定応答表現「いえ」「いいえ」「いや」」矢澤真人・橋本修 (編) 『現代日本語文法 現象と理論のインタラクション』ひつじ書房, pp.23-46
- 中島悦子 (2001) 「自然談話における応答詞の使い分け —「はい」と「うん」、「いいえ」と「ううん」—」『国士館短期大学紀要』26, pp.75-99
- 中村平治 (1988) 『日英語の依頼と応答』大阪教育図書
- 森山卓郎 (1989) 「応答と談話管理システム」『阪大日本語研究』1, pp.63-88
- Dissanayake, J.B. (1992) Say it in Sinhala, Lake House Printers & Publishers Ltd
- Fairbanks, G.H., J. W. Gair, and M. W. S. De Silva (1968a) Colloquial Sinhalese (Sinhala), Part 1. Ithaca, NY: South Asia Program, Cornell University
- Fairbanks, G.H., J. W. Gair, and M. W. S. De Silva (1968b) Colloquial Sinhala, Part2. Ithaca, NY: South Asia Program, Cornell University
- Karunatillake, W.S. (1990) Introduction to Spoken Sinhala, Colombo Gunasena Publishers

(WIRASINGHA DILINI HASANTHIKA・首都大学東京大学院博士後期課程)